

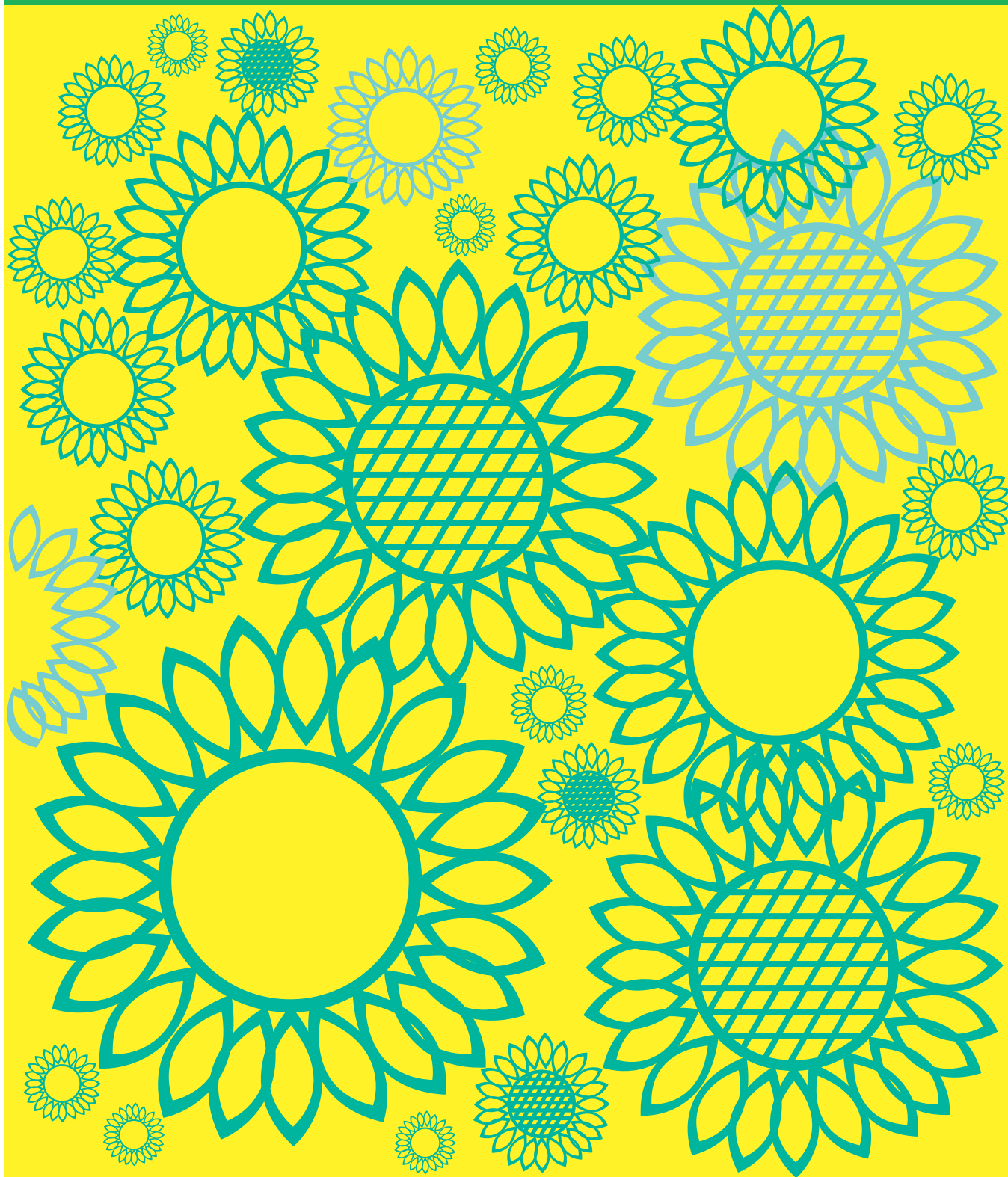
会報

夏

No.154

2011.7

社団法人北海道電業協会



目 次

「都市局長着任にあたって」	
.....札幌市都市局長 阿 部 宏 司	1
(社)北海道電業協会第45回通常総会	
（一社）日本電設工業協会北海道支部第55回通常総会	2
電業協会・電設協北海道支部合同懇親会	3
通常総会ご挨拶	
(社)北海道電業協会 会長	
（一社）日本電設工業協会北海道支部 支部長	吉 川 照 一 4
(社)北海道電業協会スローガン	5
(社)北海道電業協会役員	
（一社）日本電設工業協会北海道支部役員	6
代表者変更ご挨拶	
.....東邦電設(株)札幌支店 常務取締役支店長 横 田 寛	7
北盛電設(株) 代表取締役社長 稲 津 亘	7
栗原工業(株)札幌札幌営業所 所長 今 野 大 次	8
苫小牧電業協会 会長 中 村 衛	8
室蘭電業協会 会長 千 葉 英 也	9
釧根電業協会 会長 新 妻 繁 市	9
ご挨拶	
.....監 事 嶋 津 博	10
監 事 伊 東 新 一	10
平成23年度 技術・安全衛生基礎教育講習会	11
平成23年度 1 級学科電気工事施工管理技術検定受験準備講習会	12
平成23年度 安全大会	13
ーシリーズー 1 / 212 だより	
・「自然にやさしく・ひとにやすらぎの ^{まち} 田舎」～黒松内町～	
.....黒松内町長 若 見 雅 明	14～15
・「四季彩のまち」～上富良野町～	
.....上富良野町長 向 山 富 夫	16～17
現場からこんにちは	18～19
分離発注訪問記	20
厚生委員会行事報告 ゴルフ部会	21
顧問会	22
業界だより、理事会・三役会・委員会報告	22～26
事務局日誌	27
編集後記	



「都市局長着任にあたって」

札幌市都市局長 阿 部 宏 司

このたび都市局長に着任いたしました阿部でございます。

北海道電業協会の皆様には、平素より札幌市の建築行政に対し、多大なるご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、都市局では、「安全で安心して暮らせるまちづくりの推進」、「将来を見据えた良好な居住環境・公共施設の提供」、「『環境首都・札幌』実現のための環境配慮型建築物の推進」という3つの役割を果たし、市民の皆様が安全・安心で快適に暮らせる生活基盤を作り出すことを、局の使命と考えております。

先の東日本大震災では、大きな地震と津波などにより、多数の被害が出ており、被災された皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。甚大な被害を受けられました震災地の日も早い復興のために、札幌市も職員派遣等の支援を積極的に行い、今回の教訓を市政にも生かしていく所存であります。

都市局では、局の実践的な取組指針である「都市局実施プラン」を策定しておりますが、今年度の運営方針の一つとして、「将来を見据えた防災都市形成の推進」を掲げております。今回の震災の被害状況が明らかになるにつれ、災害時には緊急

避難場所となる市有建築物の耐震化の促進や、民間建築物の被害を未然に防止するための耐震診断・工事への補助の実施など、都市防災への備えをスピーディーに進めることで、市民の皆様が将来にわたって安心して生活できるまちづくりを行っていく必要があると、改めて強く感じた次第でございます。

このほか、市有建築物のバリアフリー改善やストックマネジメントの推進など、公共施設の整備を進める施策なども、実施プランの中に盛り込んでおります。

さらには、環境負荷低減を実現するため、市有建築物への環境負荷低減技術の導入や環境負荷低減効果の「見える化」の推進なども、重要な施策として位置付けております。

これらの実現には、市民や企業の皆様方のご理解と連携が不可欠であり、皆様方には、これまでも増してご指導を賜りますとともに、今後とも良きパートナーとして一層のご協力をお願いいたします。

最後に、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、私の着任挨拶とさせていただきます。

社団法人 北海道電業協会 第45回通常総会
 一般社団法人 日本電設工業協会北海道支部 第55回通常総会



平成23年5月11日(水)午後3時30分よりホテルニューオータニ札幌において、電業協会第45回・電設協道支部第55回通常総会を開催、会員代表者のほか営業責任者等が出席した。総会に先立ち「協会功労者表彰」を行い、吉川会長から表彰状と記念品が授与された。

○表彰者

- ・東光電気工事(株)北海道支社
工事管理部長 工藤 保 様
- ・協信電気工業(株)
常務取締役 外岡 甫 様
- ・橋本電気工事(株)
専務取締役 橋本 佳明 様



開会にあたり吉川会長・支部長から当業界の経営環境及び協会運営についての挨拶（4ページ参照）があり、「新年度も厳しい経営環境を乗り越えるため、会員相互の信頼と結束で課題克服に努めていこう」と呼びかけた。引き続き議長として議事の運営に入り、最初に議事録署名人に関場憲明氏（安達電設(株)）と瓜生道夫（(株)クリハラント北海道支社）を指名し議案の審議を行った。

- 第1号議案 平成22年度会務・事業承認について
- 第2号議案 平成22年度収支決算承認について
- 第3号議案 平成23年度事業計画（案）承認について
- 第4号議案 平成23年度収支予算（案）承認について
- 第5号議案 会費規定運用細則改正（案）の承認について
- 第6号議案 一般社団法人への移行方針（案）承認について
- 第7号議案 平成23年度スローガン（案）の採択について

当協会運営及び事業実施の基本として、諸課題

の克服と将来の業界の地位向上を掲げ、スローガン（５ページ掲載）が提案された。

第８号議案 任期満了に伴う役員の改選について

別紙（６ページ掲載）のとおり、承認された。以上をもって、北海道電業協会の通常総会を終了した。

引き続き、電設協道支部総会が開催され、支部代表者が出席した。

吉川支部長が議長となり議事を運営し、議案の審議を行った。

第１号議案 平成22年度会務・事業承認について

第２号議案 平成22年度収支決算承認について

第３号議案 平成23年度事業計画（案）承認について

第４号議案 平成23年度収支予算（案）承認について

第５号議案 役員の一部改選について

電業協会役員と一体化のため、別紙（６ページ掲載）のとおり承認された。

以上をもって、電設協道支部の通常総会を終了した。

電業協会・電設協道支部合同懇親会



林 営繕部長



瀧田 建築局長



阿部 都市局長



池田道空衛会長

両通常総会に引き続き、同ホテルにおいて合同の懇親会が行われた。

吉川会長・支部長の開会挨拶に続いて、ご来賓の祝辞を北海道開発局営繕部長 林理様、北海道建設部建築局長の瀧田裕道様よりお言葉をいただきました。

つづいて、(社)日本電設工業会 林会長からの祝電披露があり、札幌市都市局長 阿部宏司様のご発声で開会となった。

また、ご来賓として、北海道経済産業局、北海道、札幌市、(社)北海道建築士会、北海道設備設計事務所協会、北海道電気資材卸業協同組合、北海道電力(株)、(社)北海道電気協会、北海道電気工事業工業組合、札幌電気工事業協同組合、一般社団法人札幌電設業協会など、官庁、業界団体の多数の方々のご出席をいただき、会員の皆さんと終始和やかな懇親が行われ、池田薫(社)北海道空調衛生工事業協会会長の中締めでお開きとなった。



通常総会ご挨拶

社団法人北海道電業協会 会長
一般社団法人日本電設工業協会北海道支部 支部長

吉 川 照 一

北海道電業協会第45回通常総会、並びに日本電設工業協会北海道支部第55回通常総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、時節柄たいへんお忙しい中、会員の皆様には、多数ご出席をいただき、心より厚く御礼を申し上げます。また日頃より、当協会の活動に対し、深いご理解とご支援を賜り、重ねて御礼を申し上げます。

さて、国内経済の低迷が続く中、この度の東日本を襲った大地震は、東日本に未曾有の被害をもたらした全国に大きな衝撃を与えました。被害を受けた皆様方に対しまして、心からお見舞いを申し上げますとともに、早期に元の生活に戻れることをお祈り申し上げる次第でございます。

当協会といたしましても、被災地のお役に立てばとの思いから、3月末の理事会で協議し、電設協の募金活動に合わせて義援金を拠出いたしました。この地震により、自動車をはじめとする我が国の主力産業が軒並み大きな打撃を受けており、住民生活や地域経済はもとより、経済・社会に与える影響は極めて深刻なものとなっております。

電気工事業界は2008年のリーマンショック以降、工事量減少と工事価格低下等で非常に厳しい経営環境に置かれておりますが、今年度は震災の影響で工事量がかなりの低水準になるのではないかと危惧しております。

そのような状況ではありますが、社会生活に不

可欠な基盤の構築・整備に貢献する重要な役割を担っている業界として、この困難な状況を乗り切る最大限の努力を続け、新たな事業展開を図っていくことが重要なことと思っております。

このため、当協会といたしましては、これまで発注官庁に対して「分離発注の推進」や「適正工事量の確保」について強く要望してまいりました。また、一方では、協会事業の効率的な運営に努め、併せて会費低減措置を実行してきたところでございます。

公益法人制度改革への対応については、電設協の動きを見ながら総務委員会を中心に検討を行ってまいりましたが、第6号議案で「一般社団法人への移行」について提案させていただきます。

当協会の平成23年度の重点事項として、第7号議案で、現在の諸課題を克服し、社会的貢献と顧客価値の創造に努め、夢と生きがいのある電設業界を目指し、会場前方に掲げてあります四つのスローガンとして採択いただきたいと存じます。

色々困難な問題の多い時代ですが、協会の運営に当たりましては、会員の皆様と知恵を出し合い、協会の健全な発展と会員の皆様の繁栄につながるよう、協会の総力を結集して諸課題に取り組んでまいりますので、会員の皆様には、重ねてのご理解とご協力を申し上げます。

通常総会の開催にあたっての挨拶といたします。

社団法人 北海道電業協会活動スローガン

1. 品質と価格の透明性を確保するとともに、対話を通じて顧客満足度の高いサービスを提供するため、「分離発注」を強力に推進しよう

顧客との直接対話を通じて、電気設備工事の品質の確保、技術革新への対応やライフサイクルコストの低減に的確に対応でき、更には、品質とコストの関係が透明かつ明確で顧客に対し満足度の高いサービスを提供できる「分離発注」こそ、顧客の投資した資金を有効に活かすことができる最も合理的な発注方式である。

公共発注機関の一部には、専門技術者の不足や発注事務の省力化等の理由から一括発注を採用する動きも見られる。発注体制が十分でない自治体等への技術者支援方策の充実を求めるなど、「分離発注」が社会全体の大きな流れとなるよう強力な運動を展開する必要がある。

2. 電設業界の持続的で健全な発展のため、優れた人材を確保し、将来に繋がる人材を育成しよう

少子高齢化の進展に加え、若者の技術者離れが深刻である。電設業界が今後とも健全に発展していくためには、技術・技能の的確な継承と優秀な人材の継続的な確保・育成が不可欠である。若者が入社から退職に至る職業生涯を通じて夢と生きがいをもって活躍できるよう、ものづくりの楽しさや職場環境、チャレンジできる風土の構築、計画的キャリア開発（CPD）等に積極的に取り組み、優秀な人材が進んで集まる魅力的職場作りに努めていくことが必要である。

3. 適正な価格・適正な工期での受注を確保し、優良な施工体制と品質で、健全で公正な競争市場を構築しよう

電気工事業界は、利益率が低い水準の中、コストを無視したダンピング的安値受注が見受けられ、これにより結果として資本力の強い者が弱い者の事業活動を困難とし、最終的にはお客の利益を害する可能性が高い。

又、電気設備工事は建築業者の工程管理に大きく左右され、工程遅れの「しわ寄せ」が工期終盤に大きくのしかかっている。特に需要設備の使用前検査の規制緩和に伴い、受電時の完成度のチェックが不十分になり、無理な工程によるコストアップや品質管理・安全面への影響が大きな問題となっている。

適正な利益を確保しつつ品質の高い電気設備を提供するためには、適正な価格・工期での受注を確保し、健全で公正な競争市場の構築をしていく必要がある。

4. 省エネルギー対策の強化と再生可能エネルギーの活用に積極的に取り組み、低炭素社会の実現に貢献しよう

地球温暖化対策の推進のためには、国内の温室効果ガスの約9割を占めるエネルギー起源の二酸化炭素の一層の排出削減が急務である。低炭素社会の実現に向けた取り組みを進めるためには、電設業界が丸となって「省エネルギー対策の強化と再生可能エネルギーの活用」の分野において高度な技術と品質で積極的に貢献していくことが重要であり、これら新分野は将来に向けて大きな成長が見込まれ、電設業界としても積極的な取り組みが必要である。

社団法人 北海道電業協会 役員

(平成23年5月11日現在)

(新 任) (新 任)	会 長	吉 川 照 一	北 海 電 気 工 事 (株)	(総務・広報各委員会担当) (経営・厚生各委員会担当) (技術安全委員会担当)
	副 会 長	中 野 章	(株) 北 弘 電 社	
	〃	山 口 勉	(株)山口電気機械工務所	
	〃	樋 口 雄 一	(株) 関 電 工	総 務 委 員 長 経 営 委 員 長 広 報 委 員 長 技 術 安 全 委 員 長 厚 生 委 員 長
	専務理事	小 川 孝 樹	(社) 北 海 道 電 業 協 会	
	理 事	加 藤 勝 利	協 信 電 気 工 業 (株)	
	〃	鈴 木 暁 彦	拓 北 電 業 (株)	
	〃	橋 本 耕 二	橋 本 電 気 工 事 (株)	
	〃	岡 竹 俊 和	(株) き ん で ん	
	〃	萩 本 哲 夫	三 共 電 気 工 業 (株)	
	〃	清 水 秀 二	東 光 電 気 工 事 (株)	
	〃	金 子 康 郎	日 本 電 設 工 業 (株)	
	〃	鷹 薮 克 夫	(株) ド ウ デ ン	
	〃	西 山 陽 一	上 川 電 業 協 会	
	監 事	早 坂 稔	浅 海 電 気 (株)	
	〃	嶋 津 博	島 津 電 設 (株)	
(新 任)	〃	伊 東 新 一	(税)松永会計札幌事務所	

一般社団法人 日本電設工業協会北海道支部 役員 (平成23年5月11日現在)

(新 任) (新 任)	支 部 長	吉 川 照 一	北 海 電 気 工 事 (株)	((一社)日本電設工業協会)
	副支部長	中 野 章	(株) 北 弘 電 社	(理 事)
	〃	山 口 勉	(株)山口電気機械工務所	(〃)
	常 議 員	加 藤 勝 利	協 信 電 気 工 業 (株)	(〃)
	〃	岡 竹 俊 和	(株) き ん で ん	(〃)
	〃	清 水 秀 二	東 光 電 気 工 事 (株)	(〃)
	〃	鈴 木 暁 彦	拓 北 電 業 (株)	(〃)
	〃	金 子 康 郎	日 本 電 設 工 業 (株)	(〃)
	〃	鷹 薮 克 夫	(株) ド ウ デ ン	(〃)
	〃	樋 口 雄 一	(株) 関 電 工	(〃)
	〃	橋 本 耕 二	橋 本 電 気 工 事 (株)	(〃)
	〃	萩 本 哲 夫	三 共 電 気 工 業 (株)	(〃)
	〃	早 坂 稔	浅 海 電 気 (株)	(〃)
(新 任)	〃	嶋 津 博	島 津 電 設 (株)	(〃)
(新 任)	幹 事	早 坂 稔	浅 海 電 気 (株)	(〃)
(新 任)	〃	嶋 津 博	島 津 電 設 (株)	(〃)
(新 任)	〃	伊 東 新 一	(税)松永会計札幌事務所	(〃)

代表者変更ご挨拶



東邦電設株式会社 札幌支店
常務取締役 札幌支店長

横 田 寛

新緑の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

ます。

私はこの度、4月1日付けで前札幌支店長 吉田 勇の後任として就任致しました横田 寛でございます。

平素は当協会ならびに会員の皆様には大変お世話になり、心より御礼申し上げます。若輩者ではありますが皆様のご指導ご鞭撻を頂き、協会及び業界の発展に微力ながら最善を尽くす所存でございますので、前任者同様よろしくお願い申し上げます。

当社は昭和26年5月に旭川市にて電気工事会社

として創立し、今年で創立60周年を迎えました。道北を拠点とし、道内の内線工事・送電線工事を施工し現在に至っております。

私は、寒さとサンピラーで有名な道北にある名寄市の出身です。名寄工業高等学校を卒業後、昭和54年入社、以来内線工事に従事し現在に至っております。

北海道経済の低迷が続く中、本年3月に発生しました東日本大震災による影響で、更なる低迷と回復の鈍化が推察されます。

この様な中でも希望を失うこと無く、前向きに取り組んでいきたいと思っております。震災で被災されました皆様にお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられました皆様のご冥福を申し上げます。

最後になりますが、協会の益々のご発展ならびに会員皆様のご繁栄とご健勝をご祈念申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。



北盛電設株式会社
代表取締役社長

稲 津 亘

初夏の候、会員の皆様におかれましては、ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。

上げます。

この度、前取締役社長中村 憲正の後任として3月25日付で代表取締役社長に就任いたしました稲津亘でございます。平素は当協会ならびに会員の皆様には大変お世話になり心より厚くお礼申し上げます。若輩者ではございますが皆様のご指導ご鞭撻を頂きながら協会ならびに業界の発展のため最善を尽くす所存でございますので、何卒よろしくお願いいたします。

弊社は、昭和27年2月に北海道内各地の農村電化工事と集落の有線電話放送工事を主力事業として札幌で創業致しました。その後「電気設備工事

部門」と「情報・通信・映像事業部門」の2本柱を中心に「信頼・信用と確かな技術」を経営理念の基礎として、社員一同事業の推進に努めております。

私自身は昭和63年に入社して以来、管理・営業部門に従事してまいりました。また昨年までの2年間は、札幌電気工事業協同組合青年部の部長を務めさせて頂き、地域社会に根付いた業界のPR活動や後継者の育成に微力ながら取り組んでまいりました。

東日本大震災では、未曾有の被害が持たられ、復興への道程は未だ遠い状況にあります。北海道でも先行きが不透明な経済状況は依然続いておりますが、電気は必要不可欠であることを今一度認識し、夢と希望を持って前向きに取り組んでまいりたいと思っております。

最後になりますが、協会の益々のご発展と会員皆様のご繁栄とご健勝をご祈念申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。

代表者変更ご挨拶



栗原工業株式会社
札幌営業所長

今 野 大 次

会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

私は、この度、4月1日付けで前所長 楠本和秀の後任として札幌営業所長に就任致しました今野大次でございます。

平素は当協会および会員の皆様には大変お世話になり、この場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

また、若輩者ではありますが、会員皆様のご指導、ご鞭撻を頂きながら協会、業界の発展・繁栄に微力ながら最善を尽くす所存でございますので、前任者同様宜しくお願い申し上げます。

私は、宮城県仙台市の出身で前勤務地も同様でございました。なにぶん北海道は学生時代に旅行

では来たものの、勤務としては初めての場所であり地名・地図等からの勉強中であります。

これからではありますが、会員皆様の御顔と御名前を早急に覚え、私を覚えて頂くようにがんばって取り組んでいく所存でございますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

当社は、大正8年創業で、電気工事を中心に情報、通信、計装、防災、空調、土木等の設備工事の分野で現在に至っております。

昨今の景気低迷の中で一部に回復の兆しは見えて来たというもののまだまだ、私どもの取り巻く経済環境は厳しい状況が続いていると思われます。

このような厳しい状況ではありますが、希望を持って業務に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、北海道電業協会の益々のご発展と会員皆様のご繁栄とご健勝を祈念申し上げ新任の挨拶とさせていただきます。



苫小牧電業協会 会長

中 村 衛

新緑の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

又、この場をお借りいたしまして東北関東大震災及び福島原発事故に被災された大勢の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

さて、この度4月15日の苫小牧電業協会総会におきまして会長職に選任されました。

誠に、大任ではございますが今後の電業協会発展の為、微力ではありますが皆様のご期待に応えられるよう、その責任をしっかりと担っていきたいと思っております。

昨今、景気の先行きが不透明な状況の中で、道内の雇用・失業状況は依然として厳しい状況が続

いています。

このような中、何よりも産業の安定が社会安定の基盤であります。我々電気工事業界が本来持っている使命の原点に返り会員の皆様のアドバイスを仰ぎながら協会が果たさなければならない役割を会員各社一丸となって、努力を重ねていく所存であります。

この度の、苫小牧地区の会長就任に当たり業界発展のお役に立てるよう努めて参りますので、今後とも先輩諸氏のご指導と会員皆様のご支援を賜りながら努力いたしますので、よろしくお願いいたします。

そして、甚大な被害を受けられました震災地の一日も早い復興を願っております。

最後になりますが、協会の益々のご発展ならびに会員皆様のご繁栄とご健勝をご祈念申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。

(株)中村電気 代表取締役)

代表者変更ご挨拶



室蘭電業協会 会長

千葉 英也

この度4月に行われました、室蘭電業協会総会におきまして会長に就任しました株式会社耕電設の千葉英也でございます。日頃より、北海道電業協会会員の皆様より、多大なるご支援を頂いておりますことに対し、この場をお借りいたしましてお礼申し上げます。

室蘭電業協会は室蘭市内に本店、営業所を持つ21社そして団体会員として、伊達電業協会と登別電業協会から本会を運営させて頂いております。本会の目的は、電気工事に関する諸問題についての調査研究、会員企業の経営合理化、施工技術の向上及び会員相互の親睦、電気工事業の健全な進歩発展を図ることを目的に昭和40年に設立され現

在に至っております。

室蘭電業協会の本年度事業目標といたしまして、①関連工事現場における安全パトロール実施。②企業の近代化及び健全経営の研究。③技術研究会の実施。④関係発注機関、関係団体との懇談。を柱としております。

本年、3月に発生いたしました東日本大震災の影響から個人消費の低迷、基幹産業におけるサプライチェーンの崩壊により、長期的な景気低迷は避けられない状況にあります。

しかしこのような時期だからこそ、会員企業同士が一致団結し力を合わせ、より一層の施工技術、品質の向上に努め、新時代の先駆けとして邁進していきたいと思っております。

最後になりますが、北海道電業協会の益々のご発展、会員皆様のご繁栄とご健勝を祈念し、新任の挨拶とさせていただきます。

(株耕電設 代表取締役)



釧根電業協会 会長

新妻 繁市

本年4月の釧根電業協会総会におきまして、青田敏治会長の勇退により後継会長の大役を引き受けすることとなりました。会員32社、45年に及ぶ当協会の伝統を考える時、その責任の重さを改めて痛感しております。

過去、吾が釧根電業協会は帯広電業協会・オホーツク電業協会、と手をたずさえ技術向上や作業安全のために切磋琢磨し、多岐にわたる諸活動を展開してまいりました。

釧根のみならず道東経済圏を視野に活躍されてきた先輩諸兄に謝意を申し上げると共に、更には北海道は一つという思いで技術や経営向上に手を

結ぶ道内各地の電業協会の皆様に心から敬意を表するものです。

吾々は今、福島原発事故に端を発した国家的エネルギー政策の大転換に直面しようとしております。それだけに今後、吾が釧根電業協会会員各社にも新たな社会的責任が少なからず問われてくるものと思います。

かつて近江商人は「売手よし、買手よし、世間よし」が家訓だったと聞いたことがあります。「世間よし」こそ、企業が社会との間で構築せねばならない新たな課題でもあります。そんな視点に立って釧根電業協会会員各社が企業の社会的責任を自覚し、釧根の地で更なる躍進が出来ますよう、浅学非才の身ながら微力を傾ける覚悟でおります。皆様の変わらぬご指導ご鞭撻を今後とも宜しくお願い申し上げます。

(北電工業(株) 代表取締役)

ご 挨 拶



監事

嶋 津 博

去る5月11日に開催されました平成23年度通常総会におきまして、会員の皆様のご推薦により、監事に就

任いたしました。

ご指名を頂いたうえは最善を尽くす所存でございますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて国難とも言える東日本大震災から3ヶ月が過ぎましたが いまだに被災地の方々への対策や方向性などが見えないまま月日が続いております。平和な生活が一瞬にして奪われ、様々な困難の中、日々の生活も思うようにならない住民の皆様の状況を思うと心が痛みます。

自分は4月に在宅の被災者に救援物資を届ける為に石巻市～女川町～南三陸町に行きましたがその現状には言葉を失いました。

そこには新聞やテレビなどでは表現できない現

実があり、なぜか「頑張れ 日本」の言葉がむなしく感じました。どうか一日でも早い復興を願うところで御座います。そんな中現地の方々から「もの凄いスピードで電柱がたっている」という話を聞きました。確かに折れた電柱は山ほどありましたがその横で新しい電柱がたっているのです。まるで新しい命の様に…

何故か自分自身、安心感がわきました。普段我々が当たり前の様に、何の不便もなく使っている水やガスそして電気。この大切なライフラインを私達は扱っている。折れた心の中から誇りがわいてきたのです。

今一度電気の重要性を認識した次第です。ここ数年厳しい市場環境では御座いますが知恵と汗、そして勇気を持ちながら協会発展の為に努力してまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。

(島津電設㈱ 代表取締役)



監事

伊 東 新 一

はじめまして、税理士法人松永会計事務所で税理士をしております伊東です。

昨年までは、義父である藤瀬豊國が監事として皆様には大変お世話になっておりましたが、昨年の9月6日に急逝いたしました。その後、私共が税理士事務所を引き継いでいましたところ、事務局の方から「監事も引き継いで」とのことで、電業協会さんについて何も知識がない私では大変失礼かと存知しましたが引き受けさせていただくことといたしました。北海道電業協会の会員ではない外部監事となりますが、協会の皆様の立場をよく理解するよう努めるとも

に、外部ならではの立場からご協力できることがありましたら、一生懸命努力させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、ここ数年は日本経済及び北海道経済が低迷するなか、さらに追い討ちをかけるかのような大惨事となってしまった東日本大震災。今後の経済の見通しも不透明であり、厳しい経済状況が続くかもしれませんが、このような時こそ北海道電業協会の皆さんの、一致団結した行動力が不可欠なのではないでしょうか。

最後に、会員皆様の益々のご発展をご祈念申し上げます。監事就任の挨拶とさせていただきます。

(税理士法人松永会計札幌事務所 所長)

平成23年度 技術・安全衛生基礎教育講習会



この講習会は、新人や入社数年の若手社員への教育を目的に平成4年度から毎年実施されている。今回は8社から19名が受講。(一社)日本電設業協会が編さんした新人教育用テキストを用い4月5日(火)～8日(金)の4日間、北海道電気会館において電気設備技術者の基礎となる講習会を実施した。

開会挨拶では、当協会の岡竹技術安全委員長から、3月11日に発生した東日本大震災では多くの技術者が24時間体制で復旧作業に当たっている。特に電源確保のために危険な環境の中でも作業をしている我々の仲間たちを引き合いに「どんな状況でも強い使命感を持って臨んで欲しい」と求め、さらに、お客さまが求める『高品質で安心・安全な電気設備』の基本となるのが「技術・技能」と一人ひとりの「安全意識と行動力」です。そのためにも「一生やっていく仕事の基本となるのでしっかりと学んで欲しい」と激励された。

講習会では、当協会の技術安全委員が講師となり、電気設備技術者としての役割や設計・積算の基本、電気工事の施工など技術と安全に関する知識を教えた。受講生は経験豊富な講師陣の講義に真剣に取り組んでいた。

最終日には全員に修了証を小川専務理事から授与され「いち早く技術力を身に付け、企業の繁栄・発展に努力されるとともに、それぞれの職場で活躍される事を期待しています」と閉講の挨拶があり終了した。

終了後に回収された受講レポートには、「講師の方々の体験談などをまじえた講義は参考になった」「今後もいろいろな勉強会・講習会に参加したい」など、たくさんの感想が寄せられていた。

《講習内容は次のとおり》

- 【1日目】・電気設備技術者・電気設備概論
・安全衛生教育の必要性
・電気と安全、労働災害の防止
・作業別安全衛生の具体的諸対策
- 【2日目】・受変電設備・材料と工具・発電設備
・構内配線・新エネルギーを利用した電源システム
- 【3日目】・建築電気設備の設計と積算
・照明設備
・配線工事の基本・電気工事の施工
・幹線設備・動力設備
- 【4日目】・監視制御設備・情報通信設備
・防災設備・雷保護システム

平成23年度 1 級学科電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会



平成23年4月26日(火)～27日(水)の2日間、セントラル札幌北ビル6階大ホールにおいて、(社)日本電設工事業協会北海道支部と財団法人地域開発研究所との共催で実施した。今年の受講者は59名で、6月12日の試験本番に向けて真剣に耳を傾けていた。講習会のオリエンテーションではまず1級電気工事施工管理技士について「建設業法で定められた営業所ごとに置く専任技術者、工事現場に置く監理技術者、主任技術者となる資格要件」であり、本検定試験の資格取得は、本人は勿論のこと企業にとっても極めて重要な資格となることを説明。

講師は、それぞれの分野で活躍されている経験豊富なベテランぞろいで、出題科目の範囲や出題傾向など適切なアドバイスを行った。

6月の本試験の合格発表は7月14日で、合格者は10月16日の実地試験に臨み、来年2月4日の合格発表で晴れて1級電気工事施工管理技士となる。

今年度も全国の受験者数は2万人程度が見込まれているが、平成22年度の1級(学科)における合格率は全国平均38.4%で受験生にとっては厳しい狭き門と言える。講師は勿論、業界関係者等は全員の合格を期待している。

【講習プログラム・講師一覧】

	日 程		教 科 目	講 師 名	
第1日目	4/26(火)	午前	9:25～12:25 (3H)	電 気 工 学	田 中 英 一 様 北海道大学大学院情報科学研究科システム情報科学専攻
		午後	13:15～18:15 (5H)	施設電気設備 施 工 管 理	小 林 由 嗣 様 大成建設株式会社 札幌支店 札幌中央CSセンター
第2日目	4/27(水)	午前	9:00～12:20 (3H20M)	法 規	松 嶋 靖 夫 様 東光電気工事 株式会社
		午後	13:10～18:00 (4H50M)	構内電気設備	北 川 裕 章 様 大成建設 株式会社 札幌支店 さくらインターネット新データセンター作業所

平成23年度 安全大会



平成23年度安全大会は、一般社団法人札幌電設業協会と共催で6月22日(水)午後1時30分より北海道電気会館において開催された。

本年も6月1日(水)～30日(木)までを準備期間、7月1日(金)～7日(木)を全国安全週間（スローガン：安全は家族の願い 企業の礎 創ろう元気な日本）として実施される。

当日は、両会員企業の経営者をはじめ、現場監理技術者など約180名が参加した。

開会の挨拶で札幌電設業協会の櫛引副会長から「我々の業界を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあるが、いかなる環境にあっても安全が第一。安心して働ける環境づくりを労使一体となって確実に進めてほしい」と参加者全員に安全意識の高

揚を訴えた。

安全講話では札幌市都市局日當電気設備課長から、市内の工事事故事例や安全パトロールで見聞きした事例の紹介があり、同様のことがないように指導された。

道警本部の守谷交通部交通企画管理官からは交通安全のポイントなどを、具体的な事例を交えて講話をいただいた。

閉会の挨拶で、当協会の小川専務理事から、ハイリッヒの法則を引き合いに「一切のヒヤリハットを起こさないという気持ちで作業に臨んで、経営者と現場が一体となって、安全体制の確立に努めて欲しい」と力強く呼びかけた。



安全講話 日當 雅博 様
(札幌市都市局建築部電気設備課長)



交通安全講話 守谷 明浩 様
(北海道警察本部交通部交通企画課管理官)



「自然にやさしく・ひとにやすらぎの田舎」 ～黒松内町～

黒松内町長 若 見 雅 明

■ 黒松内町の概要

本町は、札幌市と函館市の中間に位置し、日本海と太平洋をわずか28kmで結ぶ間にありながら直接海には接しなく、気候は日本海と太平洋の双方からの影響を受けるため、春から夏にかけて濃霧の影響で低温となり、冬は大量の積雪があり、主たる産業は酪農でした。

また、民間法人が中心となり社会福祉施設の充実に力を注いだため、昭和の時代は「酪農と福祉の町」として評価されていました。

■ 天然記念物自生北限の歌オブナ林



新緑の天然記念物歌オブナ林

本町の面積約92haの歌オブナ林は、人々が気軽に散策できる市街地と隣り合わせにありながら手付かずの状態であったことが学術的に評価され、昭和3年に国の天然記念物に指定されています。

歌オブナ林は、天然記念物に指定された後も、太平洋戦争末期には木製戦闘機のプロペラ材に、戦後には村の財政的理由から2回の伐採の危機に直面しましたが、地元町民や学者など先人たちの懸命な努力によりそれを免れた歴史を持ちます。

また、昭和61年にブナを「町木」に指定し、このころブナの本来の漢字表記「榧」から当て字の「櫟」を用いるようになり、特産品や交流施設のネーミングに活用するなど、町民のブナに対する思い入れは一層強いものになりました。

■ ブナ林とまちづくり

全国で計画や実行に移される大規模リゾート開発をよそに、歌オブナ林をまちの象徴として位置づけ、牧歌的農村風景や地域の生活文化等の資源を生かした都市と農村の交流をまちづくりの基本理念とするヨーロッパ型の農村づくり「ブナ北限の里づくり構想」に平成元年度事業着手し、まち

づくりの目標を、それまで一般的に指標とされていた定住人口の増加から交流人口の増加に置き換えました。

日本では、ヨーロッパのように週末や長期休暇を田舎でのんびりと過ごすという習慣がなく、宿泊型滞在を可能とするため、最初に子供が家族・学級・クラブ単位で宿泊滞在しながらブナ林散策や野外学習活動ができる拠点として自然体験学習宿泊施設「歌オ自然の家」を整備しました。

次に、ブナに関しての解説や町の歴史についての展示、最新の自然情報の提供に加え黒松内の素材を生かした体験を手軽に楽しんでもらうための木工房・食工房・陶芸工房を備えた「ブナセンター」、自然の中で家族の触れ合いを楽しむ「オートキャンプ場」、都会の生活や野外体験での疲れを癒すための「黒松内温泉」を整備しました。



歌オ自然の家（平成3年）



ブナセンター（平成5年）



オートキャンプ場（平成5年）



黒松内温泉（平成10年）

ヨーロッパの農家民宿では、家庭ごとに手づくりのチーズ・ソーセージ・パン・ワインで、お客様をもてなすといわれ、本町では、地場の産物に付加価値を加えて町レベルでそれらを提供できるよう、特産物手づくり加工センター製チーズとソーセージ、特産物展示販売施設製パン、地場産ぶどうを原料にしたワインをそろえ、オリジナルの味を御用意しています。



特産物手づくり加工センター（平成5年）



特産物展示販売施設（道の駅平成11年）

歌オ自然の家、ブナセンターなどの主要交流施設整備が整った平成5年度の観光客入込みは、約46,000人で、以後年々増加して黒松内温泉や道の駅の整備後の平成12年度には約20万人を擁するまでになり、施設の新設効果が薄らいで以降も現在まで概ね15万人で推移しています。



パン・ハム・チーズなどの特産品

平成16年11月には、これまでの地域の宝と位置付けたブナを活用したまちづくりの「思い入れ価値」、歌才に加え添別・白井川の三つのブナ林が群生する「地理的・学術的価値」が評価され、本町のブナ林は「北限のブナ林」として「北海道遺産」52の一つに選定されました。

■ まちづくりの第2ステージ

ヨーロッパでは、早くから景観や環境に配慮した取り組みが行われていましたが、本町も北限のブナ林や美しい農村景観を次代に引き継ぐため保全し続けなければなりません。

平成初期から、交流施設などの公共建築物は、屋根の形や色彩などに配慮して農村でのランドマーク機能を果たせるようにし、平成8年にはふるさと景観条例を制定して奨励制度を設けて個人住宅の色彩配慮、廃屋・廃自動車撤去などを手がけたことから、ヨーロッパの農村のような色彩の統一感が生まれ、来訪者からは、「ほかのまちと違う落ち着きがある」と評価されるようになりました。

平成20年3月景観行政団体になり、翌年4月景観計画を策定して行為の届出制を導入し、交流施設を景観重要建築物に指定するなど、一層の美しい農村景観づくりを推進しています。

景観と並んで重要な環境に関しては、平成9年「環境基本計画」を策定し、平成11年には「環境基本条例」を制定して北限のブナ林や高層湿原として貴重な歌才湿原、アユやヤマメの生息する朱太川など、地域固有の環境の保全に取り組んできましたが、平成21年度から「生物多様性」の視点を公共工事、農業経営、交流、里山作りにも取り入れ、持続的に利用可能な地域づくりを目指すこととしました。

イギリスには、国内にくまなく自然発生した小路「フットパス」が張り巡り、美しい自然景観、懐かしい田園風景、古い街並みを結び、多くの人々が余暇に歩き楽しんでいます。

本町でも、車では見過ごしがちな景観や環境のすばらしさを、「歩く」スローな視点で満喫しても

らうため、平成17年コース整備に着手しました。

フットパスは、今ある道を活用し、下草刈りする程度で、自然に負荷を掛けることなく取り組むことができ、交流施設を結ぶ役目など、新たな都市との交流事業として注目を浴びています。

本町では、町民ボランティアと町が連携し、除草作業、案内看板・道標の設置、イベントの開催などに取り組み、四つのコースを整備して、総延長26kmが歩行可能になっています。



フットパス「西沢コース」

■ 交流から移住へ

イベント、景観や環境に配慮した自然を守る取り組みなどによってまちの魅力がアップするにつれて、交流だけでなく移住する方々が現れ始め、彼らによって民宿や環境雑貨店経営、木工や食料品製造といった経済活動が行われるようになり、町内外に対する町の魅力は一層高まるようになりました。

また、町内に点在する移住者の活動は、交流施設とともにフットパスで結ばれ、点から線へ、そして面へと広がっています。

前記した時代の流れを的確に捉えた本町の各種取組は、北海道が推進する移住政策ともあいまって本町への移住者や移住希望者を近年一段と増やす要因となり、人口約3,200のうちここ5年間で50名を超える移住者が新町民になっています。

ブナ北限の里づくり構想は、定住人口から交流人口に指標を変えていながら、定住人口を増やす取組にたどりつきました。



移住者が開いた和生菓子店「すずや」さん



「四季彩のまち」

～上富良野町～

上富良野町長 向 山 富 夫



【町の概要】

上富良野町は北海道のほぼ中央部に位置し、養豚やホップ等の農畜産物、町花であるラベンダーを中心とした花畑、雄大な十勝岳連峰を有するなど自然景観溢れる町です。その雄大な自然を活かして町の観光協会では「かみふらの八景」と称して観光客の皆様へ足を運んで見ていただきたい美しい景観を8箇所選定し、毎年多くの観光客が山と花が織り成す景勝地を楽しみに訪れています。

【ラベンダー】

ラベンダーは上富良野町では昭和23年から香料作物として作付が開始され、ピーク時には85haに栽培されていましたが、輸入品の増加と天然香料需用の頭打ち、農業構造の変化により減反の一途をたどり、昭和52年に香料原料としての買い付けが中止されました。

しかし、丘一面を紫に染めるラベンダーを愛する人々が、栽培を継続していたことがきっかけとなり、昭和50年以降からラベンダーの観光面での知名度と価値観が高まり始め、新たな観光資源へと変化して昭和56年には町民のシンボルとして「町花」に認定されました。現在は町営「日の出公園ラベンダー園」や民営の観光農園などで鑑賞することができます。

【十勝岳温泉郷】

標高1,000mを超す十勝岳温泉郷はまさしく雲の上の温泉で、北海道で一番高い所にある温泉になっています。他の温泉地との大きな違いである山ならではの澄んだ空気、露天風呂からの景色は

十勝岳温泉郷でしか味わえない格別なものであることをお約束します。中でも大自然の中にある秘湯だった「吹上露天の湯」はテレビドラマ「北の国から」で放映されてからは一躍有名になり、様々な雑誌に掲載され季節を問わず多くの利用者が訪れています。宿泊施設は湯治や登山で疲れた身体を癒す登山基地にもなっていて、登山家の間では知る人ぞ知る名湯です。



【十勝岳】

国立公園に指定されている大雪山系内の南部にあり、毎年多くの登山客が訪れています。夏の深緑や秋の紅葉など四季折々に魅せる山の表情は訪れた方を魅了し、感動を与えてくれます。

また、大自然の中には野生動物が多く生息しており、ナキウサギの数少ない生息地でもあります。十勝岳は日本百名山、花の百名山にも指定されている日本を代表する山岳になっています。

しかし、時に自然は脅威にもなり、過去に幾多の十勝岳噴火を経験し、特に大正15年と昭和37年の大噴火では多くの被害がもたらされました。それでも先人のたゆまぬフロンティア精神のもと町は復興を遂げ現在の上富良野町があります。このことから上富良野町と十勝岳の間には、切っても切れない深い関わりがあると言えます。



【かみふらの花と炎の四季彩まつり】

(平成23年7月24日開催)

7月下旬に開催される「ラベンダーの里かみふらの」を代表するイベントで、観光客の誘致や町民憩いの場を創造し、また、十勝岳の安全を祈願するお祭りでもあります。昼はラベンダーのポプリ教室や子供に人気のキャラクターショーを行い、夜には町内の子供会や商店街の有志らにより作成された大小合わせて10基以上のあんどんが町を練り歩く「あんどん行列」がメインとなり、夜空を彩る花火大会でフィナーレを飾り、まつりを最高潮まで盛り上げます。

【かみふらのポーク】

年間約8万頭の豚を集荷している上富良野町では、恵まれた自然環境やこだわりの飼料で育った「かみふらのポーク」を出荷しています。特に飼料については、「地養素」という木酢液の入った飼料を食べることによって、木酢液に含まれる有機酸が疲労物質である乳酸をできにくくし、ストレスの少ない健康な豚が育ちます。「地養素」とは、木酢精製液、海藻、ヨモギ、ゼオライトの4つの天然成分からつくられていて、これを飼料に混ぜて給与し、大切に豚を育てています。町外でもかみふらのポークを愛用しているお店も数多くあり、好バランス・低カロリーでビタミン豊富な豚肉なので好評を得ています。

また、上富良野町は豚サガリ発祥の地であり、豚1頭から200～250gしか取れない貴重なもので、町内では焼肉屋でも家庭でも人気のある「ご当地グルメ」です。

現在のかみふらのポークを使った特産品の開発や、温泉旅館協会によるご当地カレーの提供などを行っており、全国に向けて発信しています。



現場からこんにちは



工事名称 札幌コンベンションセンター太陽光発電設備設置工事

工事場所 札幌市白石区東札幌6条1丁目

工 期 平成23年3月29日～平成24年2月14日

発注者 札幌市

請負者 株式会社ドウデン

【工事概要】 太陽光発電設備（92.2kW）

- ・標準型（鋼製架台 29.4kW）
- ・標準型（FRP架台 20.0kW）
- ・逆段差型（鋼製架台 29.4kW）
- ・壁掛け型（CIS薄膜 10.0kW）
- ・自動追尾型（3.4kW）

【建設経緯】

今回の工事は、「札幌・サンサンプロジェクト」の一環として「メガワットソーラー共同利用モデル事業」の実現を具体化したものです。平成22年度札幌市発注の、札幌コンベンションセンターの屋上に設置する太陽光発電設備の工事です。札幌市内では、今年2月に完成した札幌ドーム太陽光発電施設（90kW）を超える大型工事です。

また「環境都市・札幌市」の宣言を受け、地球環境により配慮した二酸化炭素低減及びエネルギー計画を実現しようとするものであります。

【施工の特徴】

工事概要にも記載されております様に、従来型のモジュールと高効率型モジュールの設置および従来型鋼製架台とFRP製架台・可動式架台と逆段差架台を同時に設置、稼働させることにより各々のパネルや、異なる設置方法による発電効率の違いや、架台の強度等を検証する設備でもあります。

1. 従来のシリコンを使用した結晶系太陽光電池モジュールを従来型の鋼製架台とFRP架台に設置

※FRP（繊維強化プラスチック）架台は軽量で強度があり、かつ耐食性も兼ね備えているため長期の耐久性が要求される太陽電池の架台フレームには最適と考えられます。また、FRPはアルミニウムなどに比べ製造に要する環境負荷も軽減することが出来ます。（従来型の鋼製架台との経年劣化等について、検証作業が行われます）

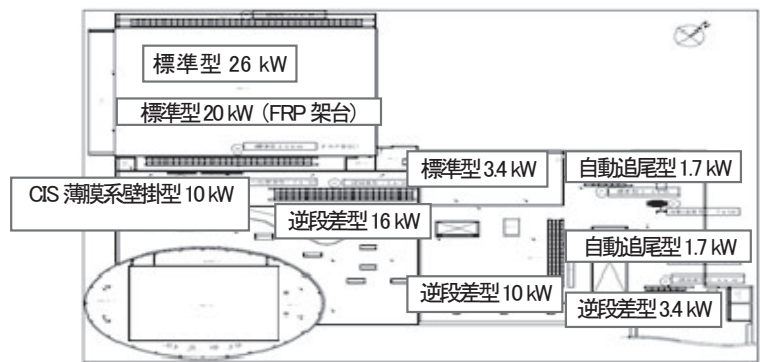
2. 新世代型CIS薄膜モジュールを壁掛け型として設置

※CIS薄膜モジュールは主な成分である 銅（Copper）・インジウム（Indium）・セレン（Selenium）の頭文字をとった薄膜系の太陽電池



積雪地に効果的な逆段差架台

太陽光発電の屋上配置図



です。従来のシリコン系より、素子が黒色であるため太陽光の吸収率が高く、薄膜であるため軽量であるのが特徴である。

3. 太陽光自動追尾型装置

※太陽光をつねに正面から受けるよう自動でパネルの向きを調整し、効率よく発電を行う装置であり、まさに「ひまわり」の様につねに太陽光に向かっていきます。

4. 積雪地帯に有効な逆段差架台

※太陽光パネルを逆段差をつけて設置することで、効果的に冬場の積雪落下効率を高め、発電効率をアップすることが出来る施工法です。電力などの一切の外部動力を必要とせず、その傾斜により雪を自然に落とすのが特徴です。

太陽光発電は北海道のような気温が低い地域ほど発電効率が良いといわれております。しかしながら冬期間は積雪によりパネルが雪により覆い隠されてしまい、発電効率が低くなることがありました。このような問題を解決するため逆段差架台の設置を行います。

この様に新たな製品を導入する事により、従来型との発電効率等の比較を行いながら、札幌市の環境に適した太陽光発電システムを検証する施設でもあり、発注者からも注目度の高い現場であります。

【施工の安全について】

札幌コンベンションセンターは常時催事が行われている場所であり、また周辺にはマンション等住宅が建ち並ぶ地域であります。騒音・振動等の

対策と、搬入に伴う工事車両の規制等にはとても神経を使う現場であります。竣工時期が冬季という事もあり、雪庇の除去等に伴う落下事故に、特に気をつけなければならないと思われます。

これから太陽光パネルや架台の設置作業のピークを迎えますが、「安全には十分気を配り施工を進めてまいります」と力強い言葉を根上さんから頂き、この度の現場を後に致しました。

根上さん大変お忙しいところお時間を頂き、私ども広報委員の取材にご協力いただき本当にありがとうございました。



株式会社ドウデン 工務部工務課 根上現場代理人

取材 広報委員 大塚 雅史
長谷川 政幸

分離発注訪問記

函館電設業会は、渡島総合振興局管内の2市9町と桧山振興局管内の7町、合計2市16町を担当しています。17自治体に陳情要請書と御礼書、当地区の会員名簿、分離発注パンフレットをセットにして今年は5月24日と27日の2日間、会長・副会長の2名で訪問いたしました。この陳情活動は恒例行事として定着している関係もあり、毎年窓口としてお目にかかっている首長さん、副首長さん、建設課長さんの3名について、前年と代わっていないければ、お目にかかったとき快く対応していただいたり、暖かい言葉をかけていただいたりします。また窓口が代わった場合は訪問の趣旨を説明してこちらもちょうと話に熱が入ります。いずれにしても管内の自治体はすべて分離発注していただいているので、懇談すると殆ど話の内容は、分離発注の件ではなくて、発注する工事が少ない事と、3.11震災の事が話題となります。

これからは新規箱物工事が少なくなって既存建物の改修やリフォーム工事が多くなると、発注・監理する側からすると分離発注よりも一括発注に

した方が都合がよいと考える場合も多くなります。また今年以降、震災復旧の関係で、震災に直接関係の無かった地域の公共工事が削減されそうな状況です。将来の社会情勢次第では原子力発電のことも含めて予測のつかない事（想定外の出来事）が電気業界に押し寄せるかも知れません。今迄培ってきた発注者と業界の信頼関係を分離発注で直接工事を受注する関係だけでなく、防災協定とか社会的な相互扶助の關係に発展させるのも当業界の使命ではないかと思う次第です。

このたびの陳情活動を通じて、訪問した自治体の生の意見を伺う事や、分離発注に対する発注者側のご理解を感じることが出来ました。今後とも、自治体とこのようなコミュニケーションを続ける事の大切さを痛感したところでございます。

今回、我々の訪問に対応していただいた関係者の皆様へ御礼を申し上げ、訪問記とさせていただきます。

記 函館電設業会会長 大鎌哲雄
(大鎌電気㈱ 代表取締役)



福島町、竹下副町長と懇談する大鎌会長



福島町、竹下副町長へ要請書を渡す平沼副会長

厚生委員会行事報告



第1回大会 スタート前

第1回ゴルフ会 平成23年5月18日(水) 札幌国際CC 参加者32名

順位	氏名	会社名	OUT	IN	GROSS	HC	NET
優勝	小野寺涼一	大成電気	42	46	88	10	78
準優勝	平野 清治	札幌日信	47	43	90	12	78
1位	近藤 国男	東和電商	47	44	91	13	78
2位	中村 好宏	旭日電気	46	46	92	14	78
3位	暁 友祐	北札幌電設	45	47	92	14	78
4位	山口 勉	山口電気	51	45	96	18	78
5位	荒川 正一	札幌日信	46	50	96	18	78
6位	矢田 彰	北弘電社	41	45	86	7	79
7位	橋本 佳明	橋本電気	56	51	107	28	79
8位	中野 章	北弘電社	44	44	88	8	80
9位	桜間 仁敏	北海道古川	42	46	88	8	80
10位	関戸 武勲	岸野電気	45	52	97	17	80

(特別賞)

B	G	矢田 彰	(北弘電社)
平	和	柳富美夫	(能美防災)
大	波	川口 誠	(エミヤ)
小	波	住本邦裕	(道タツラ)
B	B	稲津 亘	(北盛電設)
ラ	ッ	野中邦雄	(北工電気)
ッ	キ	近藤国男	(東和電商)
N	P	関戸武勲	(岸野電気)
N	P	宮本義之	(サンエス電気)
N	P	佐久間忠信	(北明電気)
N	P	野中邦雄	(北工電気)
N	P	佐藤 修	(弘電社)



第1回大会優勝者 小野寺さん(右)

第2回ゴルフ会 平成23年6月23日(木) 札幌南CC 参加者28名

順位	氏名	会社名	OUT	IN	GROSS	HC	NET
優勝	中村 好宏	旭日電気	39	42	81	14	67
準優勝	桜間 仁敏	北海道古川	41	39	80	8	72
1位	平野 清治	札幌日信	42	41	83	11	72
2位	加藤 定義	北盛電設	48	47	95	23	72
3位	枝並 秀喜	電業協会	42	41	83	10	73
4位	稲津 亘	北盛電設	45	39	84	9	75
5位	山口 勉	山口電気	46	47	93	18	75
6位	小林 勇治	三共電気	44	51	95	20	75
7位	小野寺涼一	大成電気	41	43	84	8	76
8位	暁 友祐	北札幌電設	44	46	90	14	76
9位	三井 尚	北明電気	50	46	96	19	77
10位	宮本 義之	サンエス電気	46	50	96	19	77

(特別賞)

B	G	桜間仁敏	(北海道古川)
平	和	中野 章	(北弘電社)
大	波	加藤勝利	(協信電気)
小	波	山口 勉	(山口電気)
B	B	久慈幸次朗	(東光電気)
ラ	ッ	萩本哲夫	(三共電気)
ッ	キ	稲津 亘	(北盛電設)
N	P	佐久間忠信	(北明電気)
N	P	住本邦裕	(道タツラ)
N	P	中野 章	(北弘電社)
N	P	庄田修身	(データ電建)
N	P	枝並秀喜	(電業協会) × 2
N	P	大久保之彦	(北海電気)



第2回大会優勝者 中村さん(右) 山口副会長(左)

顧問会

平成23年5月9日(月)午後5時から、ほくでん北二条クラブにおいて、今年度の顧問会を開催した。当日は遠藤顧問と野尻顧問、当協会からは、吉川会長、中野、山口、樋口副会長、小川専務理事等が出席した。

最初に吉川会長から挨拶があり、常日頃から当協会運営に対してご理解・ご支援に謝辞を述べられた後、当協会の現状について説明した。

引続き、事務局から5月11日開催予定の通常総会の議案書に基づき、平成22年度事業報告、新役員（案）などについて報告。

遠藤、野尻両顧問からは、今後の協会運営に対して貴重なご意見やご提言をいただき、今後の活動の一助とすることにしました。このあと、懇談会に入り、いつもながらの時事放談や健康談義に花が咲き、和やかなうちにお開きとなった。



業界だより

○会員代表者の変更

・東邦電設(株)札幌支店

(新) 支店長

(旧) 〃

・北盛電設(株)

(新) 代表取締役社長

(旧) 取締役社長

・栗原工業(株)札幌営業所

(新) 営業所長

(旧) 〃

・室蘭電業協会

(新) 会長

(旧) 〃

4月1日付

横田 寛

吉田 勇

4月1日付

稲津 亘

中村 憲正

3月18日付

今野 大次

楠本 和秀

4月1日付

千葉 英也

岸塚 博

・苫小牧電業協会

(新) 会長

(旧) 〃

・釧根電業協会

(新) 会長

(旧) 〃

○法人職務執行者の変更

・(株)つうけん

(新) フィールドエンジニアリング事業部

事業部長

(旧)

事業部長

4月1日付

中村 衛

滝澤 貢

4月1日付

新妻 繁市

青田 敏治

4月1日付

木村 準一

玄長 道和

理事会・委員 会報告

理 事 会

◇平成23年4月28日(木) 12:00～13:30

第1回議題

【協 議 事 項】

1. 協会役員の選任対応について
2. 電業協会第45回通常総会付議事項について
3. 電設協道支部第55回通常総会付議事項について
4. 協会・道支部の通常総会に向けたスケジュールについて
5. 通常総会、懇親会の運営・進行について
6. 通常総会の会員及び懇親会のご来賓への案内について
7. 役員会の日程について

【報 告 事 項】

1. 顧問会議の開催について
2. 職務執行者の変更について
3. 平成22年度第2回評議会（地区代表者会議）の開催概要報告
4. 平成23年度技術・安全衛生基礎教育講習会の開催結果について
5. 道の営繕工事における総合評価方式の適用に係る説明会概要報告
6. 日本電設工業協会等定時総会のご案内について
 - ・(一社)日本電設工業協会第61回定時総会開催のご案内
 - ・北海道電気資材卸業協同組合第37回総会後の懇親会のご案内
 - ・(社)日本電気協会第90回通常総会開催のご案内
 - ・建設産業専門団体北海道地区連合会平成23年度通常総会開催のご案内
7. 平成23年4月～6月行事予定について
8. その他意見交換

◇平成23年6月21日(火)12:00～13:30

第2回議題

【協 議 事 項】

1. 役員、常設委員会等の選任対応（案）について
2. 平成23年度常設委員会委員等の変更について
3. 役員会等今後の日程について

【報 告 事 項】

4. 本部289回運営委員会開催概要について
5. 本部237回政策委員会開催概要について
6. 北海道の営繕工事における総合評価方式説明会概要について
7. 平成23年度安全大会の開催概要について
8. 平成23年度北海道の建築工事に係る合同研修会について
9. 建設産業専門団体連合会と北海道開発局との意見交換会について
10. 平成23年度赤レンガ建築賞実行委員会の開催について
11. 平成23年度札幌市電気設備施工研修会の開催について
12. 技術系学校教諭・学生等との現場見学会開催について
13. 平成23年度「公共建築の日」及び「公共建築月間」の後援依頼
14. 本部・支部事務連絡会議の開催について
15. 平成23年度会員大会決議項目の提出について
16. 会員代表者、法人職務執行者の変更について
17. 平成23年6月～7月行事予定について
18. その他 意見交換

Ⅲ 役 会

◇平成23年4月18日(月) 12:00～13:30

第1回議題

1. 協会役員の選任対応
2. 協会・道支部の通常総会に向けたスケジュール
3. 通常総会及び懇親会の会員、ご来賓へのご案内
4. 平成22年度決算監査
5. 顧問会議の開催
6. 第45回・第55回通常総会の進行
7. 第45回・第55回通常総会の議案集
8. 北海道の営繕工事における総合評価方式に適用に係る説明会
9. 平成22年度第2回評議会（地区代表者会議）の開催概要報告
10. 平成23年度技術・安全衛生基礎教育講習会の開催結果
11. (一社)札幌電設業協会定時総会後の懇親会の出席依頼
12. 代表者、法人職務執行者の変更
13. 平成23年4月～5月行事予定
14. その他意見交換

◇平成23年5月9日(月) 15:30～16:40

ほくでん北二条クラブ 会議室

第2回議題

1. 45回・55回通常総会の運営（進行要領等）
2. 通常総会・懇親会の運営
3. ホテルニューオータニとの打ち合わせ等
4. 関係団体の通常総会等のご案内
 - ・(社)日本電気協会北海道支部第64回支部大会及び懇談会
 - ・建災防北海道支部平成23年第1回役員会
5. 平成23年5月～6月行事予定
6. その他意見交換

◇平成23年6月6日(月) 12:00～13:30

第3回議題

1. 常設委員会の選任対応
2. 平成23年度役員会等の行事日程
3. 本部第237回政策委員会の開催概要
4. 北海道の建築工事に係る合同研修会の開催
5. 東日本大地震に伴う道内における建築資材の供給状況調査
6. 平成23年度安全大会の開催
7. 平成23年度赤レンガ建築賞実行委員会の開催
8. 関係団体の通常総会等のご案内
 - ・札幌市業界団体連絡協議会理事会・総会及び懇親会
 - ・建専連通常総会及び懇親会
 - ・道電気工組通常総代会懇親会
9. 会社代表者、法人職務執行者等の変更
10. 技術系学校先生等との現場見学・懇談会スケジュール（案）
11. 平成23年6月～7月行事予定
12. その他意見交換

総務委員会

◇平成23年 6 月13日(月) 12:00～13:30

第1回議題

1. 平成23年度総務委員会委員
2. 平成23年度総務委員会事業実施計画（案）
3. 常設委員会・部会の構成
4. 北海道防衛局への対応
5. 平成23年度北海道の建築工事に係わる合同研修会
6. 本部理事会開催概要
7. 平成23年度技術安全衛生基礎教育講習会開催概要
8. 平成23年度安全大会、札幌市電気設備施工研修会
9. 本部・支部事務連絡会議の開催
10. 道建専連と開発局との意見交換会
11. 平成23年度会員大会決議項目の提出
12. 役員会など今後の日程
13. 会員代表者、法人職務執行者の変更
14. その他意見交換

広報委員会

◇平成23年 6 月24日(金) 15:00～17:00

第1回議題

1. 平成23年度広報委員会委員
2. 平成23年度事業実施計画
3. 会報「秋号」編集方針
4. 会報「夏号」校正
5. 新春特集
6. その他意見交換

経営委員会

◇平成23年 6 月20日(月) 12:00～13:30

第1回議題

1. 平成23年度経営委員会委員名簿
2. 第5回議事録（案）の承認
3. 平成23年度経営委員会事業計画（案）
4. 電設協第237回政策委員会開催概要
5. 北海道建設部建築局の営繕工事における総合評価方式の摘要に係る説明会
6. その他意見交換

技術安全委員会

◇平成23年 6 月 9 日(木) 12:00～13:30

第 1 回議題

1. 平成23年度 技術安全委員会委員
2. 平成23年度 事業計画 (案)
3. 実施報告
 - ・平成23年度技術・安全基礎教育講習会
 - ・平成23年度 1 級学科電気工事施工管理技術
検定試験「受験準備講習会」
4. 平成23年度 安全大会の開催
5. 札幌市電気設備施工研修会の開催
6. 平成23年度登録電気工事基幹技能者特例講習
会
7. 電気工事現場見学会の開催日程・見学先
 - ・技術系学校教諭との見学会、懇談会
 - ・技術系学校学生との見学会
 - ・協会の現場見学会
8. 技術講習会テーマ選定
9. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習
会の開催、日程
10. 工事現場安全パトロールの開催、日程
11. その他意見交換

厚生委員会

◇平成23年 6 月17日(金) 12:00～13:30

第 1 回議題

1. 平成23年度 厚生委員会委員
2. 平成23年度 部会実施計画
3. 平成23年度予算
4. その他意見交換

事務局日誌

4月5日(火)～8日(金)

・技術安全基礎教育講習会

18日(月)・第1回三役会議

21日(木)・北海道の営繕工事における総合評価
方式の適用に係る説明会

(北海道建設会館) 小川専務他

・札幌電設業協会総会懇親会

(東京ドームホテル) 小川専務

22日(月)・総会監事監査

25日(金)・本部運営委員会 吉川支部長

26日(火)・本部理事会 吉川支部長

・平成23年度1級学科電気工事施行管
理技術検定試験受験準備講習会

26日(火)～27日(水)

(セントラル札幌北ビル)

28日(木)・第1回理事会・常議員会

5月9日(月)・第2回三役会議

・顧問会議

11日(水)・第45回北海道電業協会通常総会

・第55回電設協北海道支部通常総会

・同上合同懇親会

(ホテルニューオータニ札幌)

13日(金)・日本電設工業協会第61回通常総会

吉川会長ほか

18日(水)・第1回ゴルフコンペ

(札幌国際CC)

19日(木)・北海道電気資材卸業協同組合総会・

懇親会 樋口副会長

20日(金)・本部政策委員会(237回)

山口副会長

25日(水)・日本電気協会総会・懇親会

枝並事務局長

・建災防道支部23年度第1回役員会

北海道建設会館

小川専務

26日(木)・札幌電気工事業協同組合総代会・懇

親会東京ドームホテル

中野副会長

27日(金)・歌唱部会

30日(金)・北海道電気安全委員会総会

電気会館 小川専務

6月3日(金)・建災防札幌分会役員会・総会

全日空ホテル 小川専務理事

6日(月)・第3回三役会議

・開発局から「コンプライアンス強化
計画」説明

・道赤レンガ建築賞実行委員会

8日(水)・建専連総会・懇親会

第一ホテル 小川専務理事他

9日(木)・第1回技術安全委員会

10日(金)・本部常任理事会

吉川支部長

13日(月)・第1回総務委員会

17日(金)・第1回厚生委員会

20日(月)・第1回経営委員会

21日(火)・第2回理事会・常議員会

・道電気工事業工業組合総代会

山口副会長ほか

22日(火)・平成23年度安全大会

(電気会館)

23日(木)・第2回ゴルフコンペ(札幌南)

・電力活用札幌地区協議会

役員会・定時総会・記念講演

小川専務理事

24日(金)・第1回広報委員会

・第1回ボーリング部会

編集後記

深緑が眩しい、札幌の一番過しやすい季節が訪れました。

この度は、会報「夏号」の発刊にあたりまして、札幌市都市局長阿部宏司様におかれましては、公務多忙にもかかわらず巻頭言にご寄稿いただき、厚くお礼申し上げます。

札幌市都市局の使命として、市民が安全・安心で快適に暮らせる生活基盤を作り出すことと述べられておられます。当協会会員における各種インフラ整備の役割も、安全・安心な生活基盤作りにつながるものがあると考えております。

東日本大震災から4カ月が経過し、徐々に復旧・復興へ向けて動きだしております。未曾有の大災害により、多くの方が亡くなりました。心よりお悔やみ申し上げます。そして、避難生活されている多くの方に、心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災は、巨大地震、巨大津波に、福島第一原子力発電所問題が加わって甚大なる被害となり、未だに収束しておりません。特に、原発問題は浜岡原子力発電所が全面停止するなど、今後の原子力政策に大きく影響するものと思います。

このような状況ではありますが、「頑張ろう、日本」「頑張ろう、東北」と世界から、国内各地から応援や支援の輪が広がっております。そして、何よりも被災された方たち自ら、助け合い、協力し合いながら自立への道を歩みだそうとする姿には、心が打たれます。

広報副委員長 鷹薮 克夫



発行 平成23年7月
社団法人 北海道電業協会
札幌市中央区南1条東1丁目3番地
パークイースト札幌6階
TEL (011)271-2932
FAX (011)271-2952
E-Mail:dodenkyo@estate.ocn.ne.jp